

研究計画書

1. 研究課題 協会けんぽにおける今後の保健事業等の基盤整備を目指した調査分析

2. 研究の概要

2・1 目的

本研究は、中長期的な視点から医療費適正化等の施策について全国健康保険協会（協会けんぽ）が東京大学に委託して実施するものである。協会けんぽの活動、加入事業所、加入者の特性、保健事業の実施上の課題などを前提とし、協会けんぽの内部では実施できない高度な分析手法を用いた分析を行い、協会けんぽの課題解決につなげることを目的とする。具体的には以下の4つの分析課題を取り扱う。

- 1) 効果的な特定保健指導内容の分析
- 2) 特定保健指導リピーター対策に関する分析
- 3) コロナ前後における医療機関受診・医療費の変化に関する分析
- 4) 加入者の医療費および健康状態と離職に関する分析

保険者の法定事業である特定健診・特定保健指導が再来年度から大きく見直され、次期に向けて保健指導の効果に関してエビデンスが必要であるとされている。本調査研究では、対象者の健康課題と特定保健指導の内容の対応による成果の差、特定保健指導を繰り返す人（リピーター）に関する分析を行う。新型コロナウイルス感染症のような外生ショックが起き、医療需要が不連続に変化した場合の影響の評価、加入者の傷病と離職に関する属性別・業態別・地域別の分析を行う。成果は中長期的な政策提言、短期的にも保健事業に活用することを目指す。

2・2 方法

本研究の期間は令和5年度から令和7年度までの3カ年を予定している。前記の課題に対して、概ね以下のような手順で研究を進める。

<令和5年度>協会けんぽが提供するクラウド上の分析環境の整備を行った後に、比較・分析用のデータクレンジングを行う。欠損や外れ値の確認の他、項目間の不整合の有無を確認し、分析可能なデータセットに成形する。

<令和6年度>分析用データの群分けによる比較・検証を行う。基本集計を行い、比較・検証用の分析プログラムを作成する。

<令和7年度>データ分析および妥当性の確認を行う。異なる階層のデータを用いたモデルの検証等を行い、モデルの修正、再検証を行う。

実施・収集期間	部局長承認後3年間	研究期間	部局長承認後3年間
---------	-----------	------	-----------

2・3 対象及び資料等

- 1) 対象（研究参加者の属性と人数等）

協会けんぽの全加入者約4000万人

分析内容、その他既存の保険事業の実施状況等の制約に応じて対象者を抽出する。

- 2) 試料・情報

加入者の適用事業所、加入者資格、加入者資格属性履歴、傷病手当金、特定健診結果、保健指導実施者・指導内容・評価、医療費に関するデータテーブル・データ項目

2・4 研究参加者の実体験

特になし

3. 研究を実施する施設とその役割

- 1) 該当する施設名とその役割（別途添付可）

本学のみ

- 2) （該当する場合）学外施設での対応とその状況（別途添付可）

4. 研究における倫理的配慮

4・1 インフォームド・コンセント

1) 実施方法

本研究で使用するデータには、元々の要配慮個人情報が含まれるが、協会けんぽにおいて匿名加工情報としたデータを用いるため、第三者提供の前提となるインフォームド・コンセント（本人同意）は不要である。

2) 特に倫理的な配慮を必要とする研究参加者への配慮の有無と対応策 → あり（内容を記入） なし

4・2 個人情報保護

1) 本学における個人情報の有無とその種類 → あり なし

研究の実施（データの分析）は、協会けんぽが用意するクラウド上の分析環境（サーバー）に対して固定IPアドレスを介してアクセスし、その内部で実施する。分析環境からのデータの持ち出しは不可能であり、分析結果のみを協会けんぽの都度の承認に基づいて持ち出すことになる。したがって、本学側で匿名加工情報を取り扱うことはない。

2) 本学における個人情報保護の方法
なし

3) 研究終了後の個人情報の取扱（試料・情報に個人情報が含まれる場合は除く）
該当しない

4・3 試料・情報の取扱

前項のように、本研究で使用するデータは、協会けんぽの管理下にあるクラウド上のサーバーに置かれるので、データそのものおよびセキュリティに関して本学側で管理することはない。なお、契約の研究期間内でのみデータの使用が許可されるが、再検証のために改めて許可を得た場合には期間を限定して再度データの使用ができる。

5. 安全の確保

1) 研究によって研究参加者に生じうる危険や不快等

匿名加工情報を用いた研究であるため、元々のデータと紐づいた個人が危険や不快を感じるおそれはないが、本研究に関する実施内容を所属組織のホームページで公開する。また本研究を実施することに関しては、協会けんぽのホームページでも公開される。非常に稀な傷病等を保有する個人が特定されるおそれがあるような分析結果が得られた場合には個人が特定されないような形での公表方法を検討する。

2) 危険や不快等への対応策
なし

6. 備考

研究参加者への謝礼の有無：なし あり

研究経費の内訳：委託費

企業等からの資金・装置等の供与の有無：なし あり

利益相反の有無：なし あり

その他：